

## この号の内容

- ① 岡山県地域医療支援センターの活動
- ② 岡山県糖尿病医療連携体制
- ③ 先輩からのメッセージ
- ④ 地域医療の中での脳神経外科診療 ～医師 9年目の今やっている事～
- ⑤ 地域医療とアカデミア



岡山県医師会

URL <http://www.okayama.med.or.jp/index.html>E-mail [oma@po.okayama.med.or.jp](mailto:oma@po.okayama.med.or.jp)

## 岡山県地域医療支援センターの活動


 岡山県地域医療支援センター長/  
岡山県医師会 理事 糸島達也

近年、医師の偏在など医療の受け易さの格差が拡大しつつあると言われていいます。岡山県においても、県南と県北の医療資源には差が認められます。2009年から岡山大学及び広島大学の医学部入学生に地域枠が設置され、自治医科大学卒業生と共に、医療不足地域の医療を担うことが期待されています。医療人としてのキャリア形成に対して、彼らをサポートする必要性も高まっています。岡山県ではこうした要望に応じて、2012年2月に当センターを開業いたしました。

当センターは、以下のことを行います。

1. 県内における医療人の分布状況を調査把握します。
2. 医療の需要を国民健康保険、後期高齢者医療保険、社会健康保険、介護保険等の使用額から把握・分析します。
3. 地域医療を担う人材のキャリアパスの支援体制を整えます。
4. 医療機関、大学、医師会、行政、NPO 岡山医師研修支援機構や住民組織と協力して、地域住民の健康のために活動します。
5. 無料職業紹介事業を行います。
6. 県内の医療資源の適正配置を通して、岡山県下の医療の質の向上と効率化を目指します。

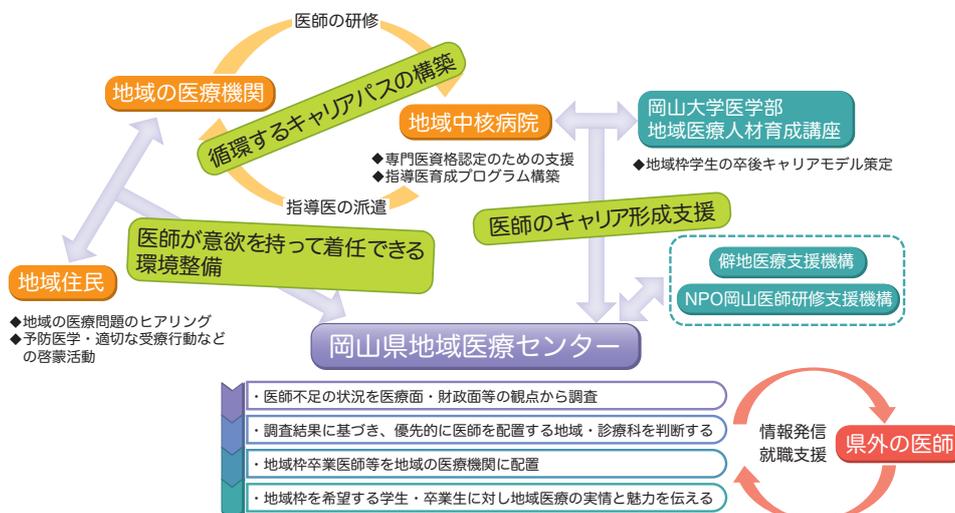
積極的に情報公開をしております。下記のホームページをご覧ください。順次医師の分布のデータを揃えていく予定です。ご要望がありましたら、当センターにお聞かせ下さい。

<https://sites.google.com/site/chiikiiryu33/home>

<http://www.facebook.com/chiikiiryu33>



(地域枠学生・自治医科大学学生合同セミナー in 湯原：H24.8)



## ミニレクチャー

### 岡山県糖尿病医療連携体制

岡山県医師会理事 **田中茂人**

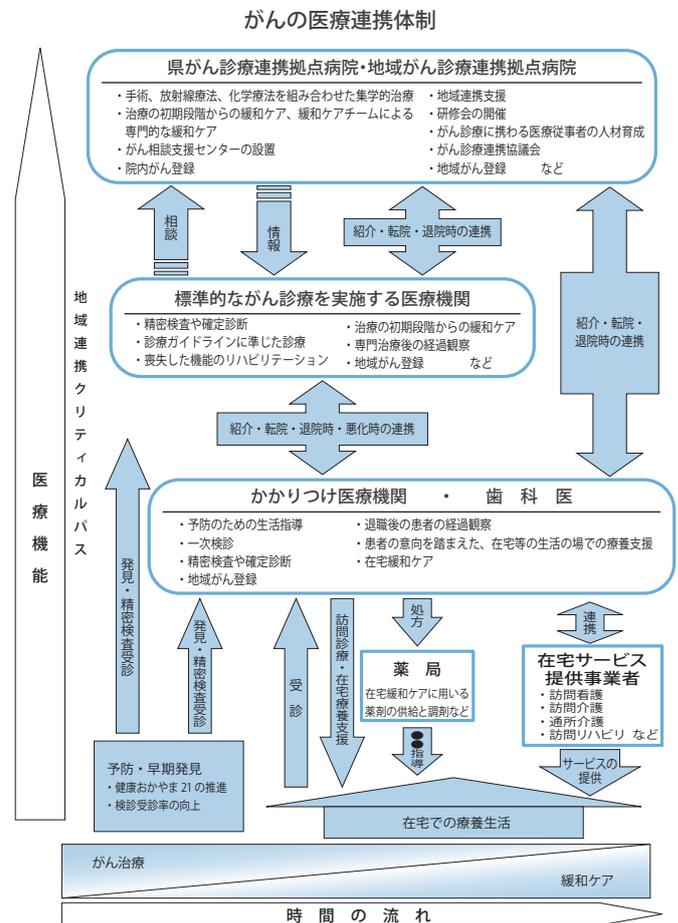
糖尿病患者とその予備軍が、時代の食文化の向上と車所有などにより増え続けている。しかも医療を受けていない人が多く、悪化して合併症が出てから受診する例が多数ある。岡山県内で一定のレベル以上の糖尿病治療を受ける事ができるように、また糖尿病患者を診療する医師には糖尿病対策推進協議会が開催する研修会に出席することを勧めるために、研修会の開催計画を協議した。

岡山県医師会や県などは、糖尿病患者に質の高い医療を提供すると同時に、通院や治療が必要な患者、医療機関双方の負担を軽減する医療連携体制を整えて県のホームページで参加医療機関を公表している。

糖尿病医療体制構築は県医師会や県歯科医師会、日本糖尿病学会中四国支部、県などが協議を重ね、準備、研修を受けたかかりつけ医や専門病院など県内全域の医療機関が県に届け、参加している。かかりつけ医と専門病院は、1年間の治療方針を示した計画書（全県統一のクリティカルパス：これはまだ全国的にも少ない）や糖尿病療養指導士による食事療法などの報告書を交換し、患者の情報を共有し、病状が安定している患者は普段、地域のかかりつけ医に通院し年に数回、専門病院で検査や治療を受ける。腎臓病や網膜症、歯周病などを併発した場合は専門病院が担当するなど、病状に応じて適切な医療を提供する。

連携と分業により、患者は病状確認や投薬などの診療はかかりつけ医で受けられるため、通院などの負担が軽減。一方、専門病

院も診療にゆとりができて、効率的な医療体制の確立でより多くの患者に質の高い治療ができるようになるので、受診が必要な県民は公表された医療機関と病状を照らし合わせ、どの医療機関を受診するのが適切かわかるよう「岡山県糖尿病医療連携体制」を用意している。



## 先輩からのメッセージ

岡山赤十字病院呼吸器内科 **西井和也** 先生

こんにちは、岡山赤十字病院で呼吸器内科後期研修医として勤務しています西井和也と申します。私は初期研修から同病院で勤務し、現在3年目です。

初期研修が始まる時は、医師としてはもちろんですが社会人としても慣れないことばかりでとても大変でした。ミスをしてしまったり、誰かを怒らせてしまったり…、そんな時一緒に働いている仲間と励まし合うことが本当に力になりました。医師は一人だけではできない仕事だと思えます。素晴らしい仲間に出会えたことは私にとってとても大きな財産です。ぜひ皆さんも研修先で出会った仲間を大切にしてください。初期研修のときは自分の興味の薄い分野なども研修する期間があるかもしれませんが、研修で経験すること、出会う人すべてがみなさんにとって間違いなく財産になると思えます。頑張りすぎ

なくてもいいですから、つらいことがあってもくじけてしまわずに過ごせば、きっと2年後には大切なものがたくさんあなたの心に残っていると思います。

私は現在、後期研修医として働いていますが、いつも分からないことに遭遇して悩むことの連続です。当科では基本的に3年目から主治医として患者さんの気持ちを真正面から受け止めなければなりません。自分の知識や経験でなんとか楽にしてあげられたときの達成感は何物にも代え難いものがありますが、その一方で患者さんのつらい場面や、死などにも直面しなければなりません。私がいつも心がけていることは、たとえどんな困難なことに遭遇したとしても、「この経験がきっと自分の糧になるはず」と思って、大事に向き合うことです。当院には多彩な患者さんが来られますから、時には諸先輩方や同僚と病気について深く掘り下げて考えたり、時には患者さんや家族と何回も話をしたりしながらいろいろな経験を積むことができます。こういった素晴らしい環境で研修ができることにいつも感謝しています。皆さんも是非それぞれの病院で充実した研修生活を送ってください。

## 地域医療とアカデミズム

地域医療の中での脳神経外科診療  
～医師9年目の今やっている事～

湯原温泉病院 後藤浩之先生

初めまして、湯原温泉病院の後藤浩之と申します。平成16年に自治医大を卒業し、2年間の初期研修後、3年目からいわゆる「へき地」へ県から派遣され、2年間の後期研修を挟んで、現在再び地域医療に従事しています。今回、地域医療支援センター長の糸島先生、県医師会理事の神崎先生より原稿の依頼を頂き、投稿させて頂きました。何をしている医者なのか？的な事を書かせて頂きます。

私は現在、地域病院で一般内科を中心とする地域医療をする一方、脳神経外科診療も並行して行っています。地域病院でもちょっとした手術は可能ですが、多くの手術は設備上の問題等で不可能で、地域病院で出来ない手術は岡山市内の総合病院で患者・医師と一緒に動いてそちらで執刀させて頂いています。市内の総合病院でも非常勤医として外来や手術を含めた脳外科診療をさせて頂いており、地域病院と総合病院を掛け持ちでここ数年は仕事しております。約100km離れてますが、土日を含めて行ったり来たりしています。

高齢者を主な対象とする一般内科を中心とした（少々の小児科診療も）地域医療に従事していますが、自分の中では脳神経外科医としてspecialistならではのプロ意識を持ってといえますか、専門医ならではの自覚や責任を持って仕事しているつもりです。

湯原のような人口の少ない地域（医療圏として約5000人）では脳外科の専門性を発揮出来る機会は赴任当初ほとんどなく、一般内科ばかりの診療（各種エコーや内視鏡検査）の日々でした。頭の手術を色々出来るようになりたくて、憧れて脳神経外科医を目指していたのですが、小さな医療圏で求められる脳外科診療は実際には脳卒中などの脳血管障害や、まして脳腫瘍などの領域では意外にありませんでした。田舎、都市部に関係ない話ですが、脊椎変性疾患・末梢神経疾患を有する患者はとても多く、湯原でもたくさん需要が（言い方は悪いかもしれませんが）埋もれていました。脊椎の手術など、脳外科を目指した当初は全く興味もなくむしろ嫌な領域でしたが、色々分かってきて実際に手術までするようになるというの間にか楽しくなっていました。私が影響を受けた上級医は、難しい頭蓋底手術から脊椎・末梢神経まで幅広くかつquality高く手術する方だったので、脳外科医としてのいい面での影響、またその先生のアイデアもあって今の脳神経外科医としての自分が成り立っていった気がしています。

来年で医者になって気づけば10年目になりますが、現時点で思う事は、脊椎診療を含めた脳外科全般の診療をまだまだ幅広く、かつ手術のqualityもどんどん高めて外科医として成長していけたらなって所です。その中で地域医療を通して成長させて頂いたgeneralistならではのマインド的なものは、脳外科だけの専門診療のみではもしかしたらきっと、なかなか得る事の出来ない、医療人として大切な要素なのだろうと思います。

こういう医者もいる的なところで今後の先生方の参考になれば幸いです。もう少し地域病院にいますので地域の研修、或いは実習で湯原へ来られる研修医の先生や学生の方々、まったり温泉にでも入りに来てください。お会いできるのを楽しみにしています。

## 地域医療とアカデミア

岡山大学医学部皮膚科 神谷浩二先生

皮膚科医を志し医学部を受験した私にとって、自治医科大学卒業後9年間の僻地赴任義務化は、今後の長い皮膚科医としてのキャリアの中でどのように影響するのでしょうか。

2年間の初期臨床研修後、僻地赴任することとなりました。皮膚科学を専攻することを決めていましたが、僻地では皮膚科医としてではなくプライマリ・ケア医として従事することを求められました。赴任先となった美作市立大原病院では内科医としての外来診療、病棟業務、訪問診療、救急外来などを中心に、上部・下部消化管内視鏡検査や、胃癌、大腸癌などの消化器一般外科手術、それに伴う麻酔管理など幅広い分野での診療を行いました。また、診療所長、健診医、学校医の立場からその地域の様々な事業にも携わり、とても充実した毎日でした。その反面で、皮膚科医としての専門性やアカデミアを求めることができない日々には葛藤がありました。皮膚科医としての居場所がないような状況に不安があったのかもしれませんが。周りのサポートもあり、キャリアアップのため週に1日を岡山大学皮膚科学教室で過ごすこととなりました。限られた時間の中で制約も多かったのですが、皮膚科学だけに集中できる時間は私にとってとても貴重なものでした。大学院入学はひとつの選択肢となりましたが、地域医療に従事しながら研究者としてもスタートを切れたことは大きな転機となりました。受け売りではありますが、どこへ行っても「Why me?」の連続でどこにもユートピアはありません。大事なことは目の前のことに常に全力で頑張ること、それは100%ではなく120%で頑張ること、そうすれば自分も変わり周りも変わる、ということを学びました。結果、プライマリ・ケア医として地域医療に従事していた3年間で皮膚科医、研究者としてひとつの大きな仕事を論文にまとめることができ、学位取得にもつながり新たな目標を持つこともできました。また、現症の捉え方や考え方、自分のしてきた仕事を形として残すことの重要性をよく学び、僻地でプライマリ・ケア医として経験した貴重な症例もすべて論文にまとめることができ、望外の喜びを得られました。「置かれた場所で咲きなさい」と見事に表現された作家がいましたが、どんな境遇にあっても周りへの感謝の気持ちとやりたいことへの情熱を失わなければ誰でも輝けます。

地域医療とは、医師と地域住民が手を取り合ってより良い地域社会を築いていくことを目指す活動とも定義されています。広義には医療従事者は皆、地域医療従事者といえます。その中で、単に一人の知的労働者としてではなく、physician-scientistとして従事することができるのは理想的だと考えます。時代を問わず、洋の東西を問わず、「中庸」というのが重要な徳目の一つとされますが、それは「地域医療とアカデミア」においてもあてはまるのではないのでしょうか。



## 第4回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「子連れでも勉強しよう」 子育て中の女性医師を支援する会

平成 24 年 8 月 25 日 ⊕ 無事終了いたしました。



### ❁ 産科レクチャー

胎児心拍モニターによる分娩管理方針

岡山大学産婦人科学教室 井上誠司 先生

現在の産科医療において必須である胎児心拍モニターによる胎児状態の所見のとり方を解説された。

### ❁ 婦人科レクチャー

子宮頸がんヒトパピローマウイルス (HPV)

広島市立市民病院産婦人科 児玉順一 先生

子宮頸がん検診(細胞診)の所見の読み方とHPVの陽性所見を組み合わせた予後判定と今後の方針の解説と、HPVワクチンについて解説された。

### ❁ 子育て中の悩みディスカッション

『ハッピーワークライフバランス～ワーキングマザー 3つのポイント』

岡山赤十字病院産婦人科 大村由紀子 先生

その後参加者の自己紹介および県医師会の支援事業の紹介を行った。

企画/関 典子・新家朱里・平野友美加

## お知らせ

### 学会出席時に託児施設をご利用下さい

岡山駅前の託児施設に学会出席中の託児を特別料金でお願いしています。利用には

岡山県医師会保育支援事業への申し込みと託児施設への事前予約が必要です。詳しくは岡山県医師会へお問い合わせ下さい。

岡山県医師会主催の教育講座等への出席の際の会場での無料託児は従来どおり行っております。ご利用下さい。

詳細は <http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/youkou.html>

### 託児利用者からの声

地方会の日にポストメイト保育園を利用しました。毎日の保育園以外にも、託児付きの講演会や、毎月コンスタントに来る病児保育など、私は預けることに慣れていました。一方、娘は知らない人に抱かれると毎度号泣です。別れ際はちょっとだけかわいそうな気がしますが、お陰様で発表に集中でき、他の演題も興味深く聞くことができました。お迎えの時には、きめ細かな託児の記録を受け取り、どんな様子だったかも教えて頂き、安心してお任せできました。

### ■ 表紙の写真

撮影者 岡山大学病院糖尿病センター助教 廣田大昌先生

### 岡山県医師会の ソーシャル・ネットワーキング・サービス



<http://sns.okayama.med.or.jp/>

\*利用希望の場合は県医師会までご連絡ください。

### 第3回MUSCATフォーラム

テーマ：「Front runnerと語る グローバル時代の医療人として」

日時：平成 24 年 11 月 23 日(金・祝) 13:00～

場所：地域医療人育成センターおやかま(MUSCAT CUBE)3階 MUSCAT Hall

特別講演

『多様性の底力ー20年間のアメリカ医療生活から学んだ事ー』

米国スタンフォード大学内分泌内科 准教授 赤津 晴子 先生

詳細は <http://www.okayama-muscat.jp/okayama/category/event> (MUSCAT プロジェクト)

## 編集後記

岡山大学正門のポプラ並木が黄色く色づき、落ち葉の絨毯が出来ています。Good Doctor Vol. 5は地域医療にスポットを当てています。地域医療支援センター長を兼任されている糸島理事に地域医療支援センターを紹介していただきました。

ミニレクチャーは田中理事に地域医療連携バスについて糖尿病を例に解説していただきました。岡山県ではほかに「地域連携バスも脳ネット」(脳卒中と大腿骨頸部骨折に関する地域連携バス)と「5大がん連携バス」があります。病診(病院と診療所)連携が必要になったとき役に立つのが連携バスです。

地域医療がテーマの本号ですが、地域でジェネラリストとして働きながら

ペシャリストの道を模索した二人の先輩を紹介しています。後藤浩之先生は脳外科専門医を取得され、神谷浩二先生は皮膚科専門医を取得しようと勉強中です。色々な道を模索することは大切ですし、自分の望みを叶えようと人一倍努力することはさらに大切だと思います。

岡山県医師会SNS「プラタナスの木陰」は試用中です。医師・医学生専用のSNSを利用してみたいとお思いのグループの方は岡山県医師会事務局(oma@po.okayama.med.or.jp)へお申し込みください。(試用中ですのでまだ、サイトからの申し込みはできません。招待メールをお送りいたします。)現在、皮膚科の女性医師のグループが利用されています。

Doctor's Career Café in OKAYAMAも引き続き開催しています。「医学生・研修医をサポートする会」は「医療の現場で男女共同参画を考えてみよう」をテーマに開催しました。詳細は次号でご案内できると思います。